

自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 5 年 5 月 15 日

【事業所概要【事業所記入】】

事業所番号	3491502070		
法人名	株式会社ファイブワン		
事業所名	加茂グループホーム愛		
所在地	〒720-2412 広島県福山市加茂町下加茂塚脇1011番1		
	電話番号	084-983-3451	
自己評価作成日	令和 5年 3月 31日	評価結果市町村受理日	令和 5年 6月 8日

※事業所の基本情報は、介護サービス公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

【外部評価機関概要【評価機関記入】】

評価機関名	一般社団法人 みらい
所在地	広島県福山市山手町1020番地3
訪問調査日	令和 5 年 5 月 6 日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

「共存」という理念の下、入居者・家族・地域住民・職員などが地域の中で共生していく事を事業所理念に掲げている。
リハビリを通じた健康づくりを促進しており、療法士の指導の下、生活リハビリや機能訓練を実施し、ADL・QOL向上に努めている。
認知症ケアについては、役割や楽しみ事へのアプローチを行い、達成感や笑顔を引き出せるように支援している。
家族様には都度の連絡の他に機能訓練報告書やアルバムを作成し、コロナ禍で面会が難しい中でも家族様に日々の様子が伝えられるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

市の北部に位置し、近隣には中学校もある。民家も点在し穏やか環境である。事業所独自の理念である、「利用者の尊厳ある生き方を大切に笑顔と自立支援を後押ししながら、地域と共生し、安らぎに満ちた心豊かな暮らし」という理念の下、また、「家庭的な雰囲気の中で生活リハビリに重点を置き、残存機能の維持向上に努め、定期的に評価し、自分らしさや生きがいのある生活を提供できる様務める。」という目標を日々全職員が認識し、実践されている。また、利用者との対話を大切にコミュニケーションを築き、家族の様に寄り添い穏やかに過ごしてもらえる様務めている。特に優れている点においては目標にある、残存機能維持の為、理学療法士や作業療法士による専門職の機能訓練や又、職員への指導等が行われている事と共にその機能訓練報告書も家族に報告され共有されている事。また、コロナ禍の為、家族の訪問も制限があるが希望により柔軟に訪問対応していると共に毎月、日々の状況をお手紙と写真付きのホーム便りを添え送付し、現状把握してもらい、安心感に繋げると共に家族との絆が途切れない支援に取り組まれている。地域との交流もコロナ禍の為、イベント等も中止となり地域の方と交流はできないが、地域の溝掃除に参加すると共に資源回収にも協力している。包括主催のお互いさまミーティング加茂会議にも地域の一員として出席している。状況が良くなれば地域資源の活用と地域貢献に努め、地域と共生し、その地に根づいた事業所となる様取り組まれる。今後に期待したい。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「共存」を意識して、職員が入居者に「させる」「してもらう」ではなく、「一緒にしていく」事を心掛けている。	誰もが見え易い、玄関に経営理念は掲げられていると共に職員が考案した事業所独自の理念は事務所の目につき易い場所に掲示され、日々見ることで反省と振り返る機会としている。また、申し送り等でも周知し、日々のケアに活かすよう取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事、イベント等がコロナ禍で中止になっており参加できていない現状に有るが、年2回の溝掃除等に参加している。	町内会に加入し、回覧板が回って来るため、情報は把握できているが、コロナ禍により、イベントなどは中止となっているが年2回の溝掃除には参加している。又資源回収にも協力し、できる事があれば積極的に参加し、地域の一員として地域との付き合いが途切れない様務めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を利用して、認知症理解を深めていただけるように、情報発信に努めている。又、事業所から出る段ボール箱を廃品回収に出させていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所での現状報告を行い、地域住民から意見、要望をサービス向上につなげられるように努めている。	コロナ感染者が減少時(年3回)には開催し、町内会長、民生委員、家族、薬剤師、包括職員等の参加の下、会議の目的や現状等多岐にわたり報告し、理解してもらう中で意見を得、サービスに活かしている。できない時期には書面にて報告し状況把握してもらい意見の把握に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困難事例などの相談を行い、助言をもらいながら連携を行っている。	困難事例や疑問等があれば電話等で相談し、その際には現状や取り組み等についても伝え、理解して頂き、助言等得、協力関係を築く様取り組まれている。地域包括主催のお互いさまミーティングIn加茂会議に参加し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会と研修会の定期開催、施設内会議やユニットミーティング・申し送りなどの場面を利用して勉強会や申し送りをし、正しい知識の入手に努めている。	基本身体拘束はしない方針であり、玄関の施錠を含め身体拘束はしていない。事例を基に研修を行ったり、講師による研修も実施し、全職員正しく理解されている。又、リスクに対し家族からの要望があっても見守りで対応し、家族にも理解してもらい、しない支援に取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止の研修を行っている。職員同士でも虐待に繋がりがかねない言動については、その場で話し合いが出来るように努めている。又、に日常生活の中で素肌に見えるトイレや入浴の際には皮膚等の異常が無いか観察を行い、虐待を疑う事案が無いか確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員に関しては学びの場が無く、研修開催予定ではあったが、本年度は実施できていない。令和5年3月現在で、後見制度を利用されている方は居られない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に面談・相談を行っている。契約の際にはしっかりと説明を行い、改定があれば随時説明を行い、書面もお渡ししている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、日常の様子を写真と書面でお伝えすると共に、状態に変化があった場合には電話での報告も行っている。また、家族からの要望もいつでもお聞きする事を伝えており、要望がある際には気軽に相談していただけるようにして、介護に反映できるようにしている。	家族の訪問制限があるが、希望により、窓越しや玄関等でお会いしてもらっている。その際に現状について報告する中で意見や要望の把握に努めている。又、毎月、家族へ日々の状況をお手紙に写真を添え報告し、その際にも意見等を聞くように努め、色んな場面での意見は反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの場で出た意見を反映する他、日頃から職員間での申し送りやコミュニケーションを図り、その都度情報の整理と反映が行えるようにしている。	日々のケアの中で気が付があれば、リーダーに伝え、そこから管理者に報告されている。又、ミーティングでも聞く機会を持ち、多くの意見の把握に努め、検討すべき意見等については全職員で検討し、反映させている。個人面談の機会もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の評価制度を設けている。(非常勤は年1回) また、資格取得支援も行っている。 労働面に関しては定時に退社するように声掛けを行い、希望休に関してはプライベートを充実したものに出来るよう、原則無制限で受け入れて		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の長所を伸ばせるようにすると共に、短所も少しずつ無理のない範囲内で指導を行っている。また、研修に参加できるように声掛けや勤務調整を行っている。少しずつではあるが、社内研修の開催を再開している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今まではコロナ禍でリアルな交流は行っていないが、オンライン研修などに参加、研修後にも交流がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問を行い、本人様からお話しただけの機会を設け、ケアプランに反映するようにして、職員への周知徹底を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様同様に事前にお話を伺える機会を設ける事で、ケアプランへの反映を行っている。また、普段から何かしら疑問や要望があれば気軽に電話での問い合わせをしていただけるように声掛けを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談で要望を伺い、その人に合ったサービスが提供できるように努めている。必要に応じて、その他のサービス案内も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何かを「させる」「していただく」ではなく、職員も一緒にいきコミュニケーションを図っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様から情報提供いただき、本人様が穏やかに過ごせるように支援していると共に、家族様に本人様の支援の一端を担っていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症が流行している際には面会を窓越し面会にさせていただいているが、タブレットを使った面会にも対応して遠距離からでも家族様との交流の機会が持てるようになっている。また、本人様の要望に応じて墓参り等外出支援も行っている。	コロナ感染予防の為、家族の訪問制限があるが、窓越しや玄関でお会いしてもらったり、タブレットを利用したり、色々な工夫をし家族との絆が途切れない様柔軟な支援を心掛けている。又、希望があり感染予防を徹底し、お墓参りに職員と共に行かれた方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が一人にならないように、常に複数人を巻き込みコミュニケーションやレクリエーションを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居となった方や家族様に対してこちらから積極的な連絡は行っていないが、家族様より連絡いただくことはあり、その際には出来る限りの対応はさせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様から出てくる日常生活の中での何気ない一言を拾い上げ、ケア会議の場等で支援に反映出来るようにしている。	日々の会話、利用者同士の雑談から、汲み取ることがある。又、利用者とのコミュニケーションを大事にされ、何でも言える雰囲気づくりをしながら、個々の要望には可能な限り対応している。食べ物、帰宅願望、お墓参り、外出等の思いが出る。表出困難な方には声かけをし、その時の表情等で判断し、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様や家族様、以前のケアマネジャー様や介護事業所などから情報をいただきアセスメントを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護職、機能訓練員が日々の様子を記録、申し送りを行う他、ケア会議の場で情報共有を行い、日々の変化を把握出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナ禍で一同会したケア介護は開催していないが、家族様には事前に電話で意見、要望をいただき多職種でケアプランを作成している。	家族、本人の希望、主治医の所見、理学療法士の意見、また、個々の個別記録から、課題やニーズについて職員の意見等を基に担当者会議で検討し、柔軟、かつ現状に即した計画を作成している。担当者会議には家族も出席している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ユニット毎に申し送りノートを作成、気づきを記録しているのは別に個別の日々の様子を記録、共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームで可能なサービスには出来る限り対応している。 (専門職による個別リハビリ・音楽療法等)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本年度はコロナ禍の為外部からのボランティア参加を募れなかった。現在コロナ禍は落ち着いてきている為、地域のサロンへの参加も検討・町内会長様との相談も進めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診以外にも体調の変化があれば随時相談できる体制を整えている。また、何かあれば専門医への紹介をして下り、受診支援できる体制を整えている。	全員が協力医療機関となっている。月2回、協力医の往診がある。又、訪問歯科も利用している。協力医とは緊急時や夜間等、24時間指示が得られる体制が構築されている。訪問看護も利用し、週1回の訪問があり、日々の健康管理はできていて医療面は安心である。理学療法士も訪問され、機能訓練や指導もされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約を行っている。週1回の定期的な訪問の他、日々の様子に変化があれば対応出来るようにオンコール体制も整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にはスタッフが家族と病院関係者との話し合いの場に参加させていただき、情報提供を行ったり、退院後のアドバイスをもらえるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の希望を取り入れながら、医師・看護師との連携を取り、ターミナルケアを含めた出来る限りのことをグループホームで行えるようにしている。	利用開始時、終末期の指針を基に事業所として、できる事、できないことを十分説明され、理解してもらっているが重度化した場合には、主治医、家族等三者で密に話し合い、その都度家族の意向の確認を行い、三者で方針を共有し、看取り支援に取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成・周知している。また、24時間、医師・看護師と連絡とれる体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施、日中・夜間それぞれを想定した訓練を実施している。	年2回、夜間、日中を想定し、通報、消火、避難誘導等の訓練を実施し、慌てず、速やかに対応できる様、個々の実践力を見に付ける様取り組まれている。居室からの避難後は名札を落とす事を決めていると共に避難場所の確認もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴・排泄時には特に声の掛け方やボリュームに配慮して本人様のプライバシー・尊厳を守れるように努めている。	生活歴を基に個々に合った声かけや対応をするように周知されていると共に人生の先輩であり、目上の人という事を常に認識し尊厳を大切に支援を心掛けている。講師による接遇の研修も行い全職員が統一した対応ができる様取り組まれている。職員間で気付いた時には注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の細かい本人の思いを傾聴し、本人の自己決定が出来るように支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れがあるものの、本人主体で行動できるように、日々の生活を送っていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で身だしなみを整える方が殆ど居ないが、声掛け等を行い、出来るところは自身でしていただくようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備できる方がなかなか居られない為、食事の準備は職員が殆ど行っている。食事前には季節の話や食べ物の旬の話・本日のメニュー等の話を行い、食欲が湧くように工夫している。	利用者の身体状況により、キザミ、トロミ食等、個々の形態で対応されている。栄養バランスにも配慮され、見た目も食をそそる盛り付けで、食を促す声かけや食材の話、また、世間話をしながら、楽しみの時間となる様務めている。おやつ作りやイベント食などは利用者と共に作られ、楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面では定期的に医師がチェックしている。水分摂取がなかなか出来ない方も居られるが、色々な飲み物を用意し、好みに応じて提供を行うと共に、水分量の記録を行いチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後に口腔ケアの声掛けを行い、実施している。自身でのケアが難しい方は職員が一部介助している。4月からは歯科医と連携して定期的な検診と職員への口腔ケアを指導を行い、口腔衛生保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録から、個々の排泄習慣を把握し、トイレでの排泄が続けられるように適切なタイミングでの声掛け・誘導を行っている。	日中は個々の時間帯で声かけし、トイレでの排泄に努め、立位、座位をする事で機能維持に繋げると共に生活習慣を活かした支援を心掛けていると共に気持ちよく排泄できる事を大切にしている。自立の方もいる。プライバシーには気をつけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促すと共に、日々の運動に力を入れている。便秘傾向の方には、家族様がヨーグルトやヤクルトを持参されたり、意思と相談を行い下剤の処方もされており、過度な便秘に対して対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的なスケジュールがあるものの、本人の要望や必要性に応じた入浴が出来るように努めている。	週2回、時間帯は決められているが、個々の希望を取り入れ、柔軟に対応し、入浴が楽しみとなる様、その日の希望に沿った支援をしている。拒否の場合は声かけの工夫や対応者を変える等しながら清潔保持に努めている。無理強いはいしない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも適宜休めるようにしているが、夜間しっかり休めるように、日中は出来る限り活動的な生活が出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の居宅療養管理指導を契約していただき、薬の変更を分かりやすく一覧で表示、職員なら誰でも確認できる場所に保管している。服薬時には必ず複数名での確認を行い、事故防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様の趣味・能力に応じて、家事や制作物などを職員と一緒にやっている。また、15時のおやつや月に数回の食事作りも一緒にやっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍ではあるが昨年度よりも近隣への散歩やドライブ等を増やしている。今後も本人要望に応えられるように努める。	コロナ感染予防の為、以前の様に希望に沿った外出支援はできていないが、状況が緩和された時には、感染対策をされ、散歩やドライブでお花見や紅葉などを見に出かけ、その時々季節を感じてもらおうと共に五感刺激や気分転換になる様取り組まれている。また、室内行事を多く企画し、(ミニ運動会等)少しでも笑顔になってもらえる様取り組まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来ない方が殆どである為、基本的には持たれていない。希望があれば金銭管理を行える体制は整えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様希望時には職員が間に入り、電話が出来るようにしている。また家族様からも本人様との会話の為に電話をかけて来られることがあり取次している。その他でも、タブレットを使用した面会などもできる体制を整えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた壁紙を入居者と作成、掲示している。適宜、空気の入れ替えや時間に応じた照明を日々気を付けている。	玄関には絵画や椅子も置かれ、家庭的な雰囲気である。共有の場には季節ごとの折り紙やぬり絵等、利用者と共に作成された作品が飾られている。ソファも置かれ、好きな場所で過ごす事ができる。不快な匂いや死角もなく、室温にも配慮され穏やかに過ごせる共有の場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外が良く見える談話室に、長椅子を置いてくつろげる談話ホールを自由に使えるようにしており、他の入居者とお話したり、外を眺めながら日光浴される入居者が居られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自身が使われていたなじみの物を居室には持ち込んでいただいている。居室内はその方の身体状況や希望に合わせレイアウトを行っている。	テレビ、家具、冷蔵庫等使い慣れた物が持ち込まれている。趣味のミシンを持って来られ、自宅に近い環境作りをされ、違和感なく過せる工夫をされている。又、カレンダーや時計も置かれ、時の認識に繋がられている。居室からお庭も見られ、安らぎを感じる事ができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手摺りを設置、居室や共用部にはその場所が何であるか分かるように、場所を明記したり、本人様の分かる目印を付けている。		

V. サービスの成果に関する項目【アウトカム項目】

項目		取り組みの成果(該当するものに○印)		項目		取り組みの成果(該当するものに○印)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼすべての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼすべての家族と
			②利用者の2/3くらいの				②家族の2/3くらいと
			③利用者の1/3くらいの				③家族の1/3くらいと
			④ほとんど掴んでいない				④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に一度程度ある				②数日に1回
			③たまにある			○	③たまに
			④ほとんどない				④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼすべての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②利用者の2/3くらいが			○	②少しずつ増えている
			③利用者の1/3くらいが				③あまり増えていない
			④ほとんどない				④全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き活きた表情や姿が見られている		①ほぼすべての利用者が	66	職員は生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②利用者の2/3くらいが			○	②職員の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③職員の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
60	利用者は戸外の行きたい所へでかけている		①ほぼすべての利用者が	67	職員から見て利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが			○	②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが				③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼすべての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②利用者の2/3くらいが				②家族等の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている		①ほぼすべての利用者が				
		○	②利用者の2/3くらいが				
			③利用者の1/3くらいが				
			④ほとんどない				

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	コロナ禍であった事もあり、外出機会がかなり少ない。	個別、集団共に外出する機会を少しでも多く持つ。	本人の望みに応じられるように、墓参りや選挙投票、ドライブや買い物等、日常的な事に関しての外出支援を行う。	R5年度上半期
2	18	他者の衣類を着ている入居者が居られた。職員と入居者が一緒に洗濯畳みを行えていない、もしくは朝の更衣を本人に任せっぱなしにして確認をしていない。	少なくとも入居者の居室内に他者の洗濯物が無いようにする。	職員と入居者が一緒に洗濯ものを畳み、お互いに確認し合うことで他者の洗濯物混入を防ぐ。	R5年度上半期
3	37.38 .46	日中、寝て過ごす時間が長い入居者がおられ、その方は夜に眠れない事がある。	夜しっかり休めるように、日中に活動的な生活を送る。	日中に、楽しみや役割、やりがいを持つ事で活動的な生活を行い、夜にしっかりと休めるように支援する。	R5年度中
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。